9

むかしの人々は、表郷村をよくするために、どんな努力やくふうをしてきたでしょうか。

1 水不足をなくす努力　～犬神ダムをつくる～

（1）水あらそいの村

表郷村は、昭和３０年に古関村（中野・内松・番沢・社田・旗宿・関辺）、金山村（金山・梁森・高木・三森・下羽原）、社村（小松・八幡・中寺・堀之内・河東田・深渡戸）の３つの村が一しょになってできました。むかしから農業がさかんにおこなわれており、中でも、米作りが一番さかんでした。

水田に引く水は、社川やその支流の藤の川などから引かれていましたが、それだけでは、水の量がたりませんでした。

そこで、南湖や大池などのため池をつくり、水をためて、田に引いていました。さらに地下水なども利用していました。

しかし、それでも、十分とはいえず、いつも水不足になやまされていました。

農家のおばあさんの話

むかしは、ひでりのときが一番こまりました。ため池には水がたまらないし、社川もあまり水が流れていないので、田に少ししか水がひけず、稲がよく育ちませんでした。少ない水を自分の田に少しでも多くひきたいと思い、夜ねないで水の番をした人もいました。水はみんなのものですが、時々、やくそくを守らず、水のことでけんかをする人もでるほどでした。

農家の人たちは、自分の田に水を引くために、近くの田の持ちぬしとけんかまでして、ひっしになって、水を引いていました。このように、むかしから、水ぶそくになやみ、水あらそいがたえませんでした。

また、社川はあばれ川で、大水が出るたびに、川すじがかわり